

会 議 録				
平成 25 年度 三者合同会議	日 時	平成 25 年 11 月 20 日 (水) 午前 9 時 30 分～11 時 17 分	場 所	小金井市第二庁舎 8 階 8 0 1 会議室
事務局	小金井市教育委員会生涯学習課			
出席者	委員	社会教育委員 中村議長、原嶋副議長、樋口委員、石田委員、樹委員、本多委員、倉持委員、小山田委員、清水委員		
	その他 事務局	図書館協議会 田中会長、中里会長職務代理者、原委員、吉田委員、(石田委員)、宮澤委員、則武委員、藤森委員 公民館運営審議会 藤井委員長、佐々木副委員長、小島委員、山田委員、立川委員、亘理委員、清水委員、神島委員、宮澤委員 説明員 西田生涯学習部長、天野生涯学習課長、尾崎国体推進担当課長、大関公民館長、上石図書館長補佐 事務局 天野生涯学習課長、佐藤図書館庶務係長、山崎公民館庶務係長、栗栖図書館庶務係主事		
傍聴の可否	◎可 ・ 一部不可 ・ 不可		傍聴者数	0 人
傍聴不可 ・ 一部不可の場合の理由				
次 第				
1 生涯学習部の概要について (1) 組織及び所掌事務				
2 三者の概要について (1) 社会教育委員の会議 ・ 社会教育委員の役割、これまでの経過 ・ 第 27 期社会教育委員の紹介 (2) 図書館協議会 ・ 図書館協議会の役割、これまでの経過 ・ 第 13 期図書館協議会委員の紹介 (3) 公民館運営審議会 ・ 公民館運営審議会の役割、これまでの経過 ・ 第 32 期公民館運営審議会委員の紹介				
3 三者共同の取り組みについて (1) (仮称) 小金井市生涯学習支援センター機能の実現に向けて (提言) の提出 (2) 「青少年のための科学の祭典」東京大会 i n 小金井への出展状況				
4 意見交換				

会 議 結 果

(中村議長) 定刻になったので、平成25年度三者合同会議を始めさせていただきます。私は社会教育委員の中村である。よろしくお願いいたします。

それでは、時間的なものから案内させていただくと、この三者会議については11時をめぐりに閉じさせていただく。その後、社会教育委員の方のみこの場に残っていただいて、別途また会議を開かせていただくので、協力をよろしくお願いいたします。

まず、事務局のほうからお願いします。

(天野生涯学習課長) 今回の会議は社会教育委員の会議が幹事ということであるので、生涯学習課で事務局を務めさせていただく。議事に入るまでの間、進行をさせていただく生涯学習課長の天野である。よろしくお願いいたします。議題に入る前に資料の確認をさせていただく。

まず1点目、小金井市教育委員会事務局組織図、教育委員会の組織及びこれまでの審議会の所管を図で示したものである。

次に、生涯学習部の所掌事務及び生涯学習部のそれぞれの部署の業務内容を示したものと、その後ろに参考に、それぞれの部署の事業概要をまとめたものがセットになっている。

次に、各機関委員名簿、三者それぞれの名簿を1枚の表に取りまとめたものである。後ほど自己紹介をしていただくが、記載内容に間違いはないかどうか確認をお願いします。

次に、(仮称)小金井市生涯学習支援センター機能の実現に向けて【提言】、こちらは後ほど議題の3で、社会教育委員の会議の議長から説明をさせていただきます。

最後に、科学の祭典に関する資料が3つある。1つ目は今年の大会の出展一覧である。2つ目は大会の報告書から三者のブースが記載されているページを抜粋したもの。こちらは今年度の報告書がまだできていないので、昨年度のものを参考に配付している。3つ目は今年度参加した際の写真のコピーである。

それと参考に、「小金井の教育 平成24年版」という緑色の冊子を配付している。こちらは数に限りがあるので、前期から継続の方などで、既にお持ちの方がいらっしゃったら、会議終了後、返却していただくようお願いする。配付漏れ等はないか。

本日の流れについて、簡単に説明をさせていただく。本日の次第をごらんいただきたい。本日の議題については、過日、三者の代表で打ち合わせをさせていただいて、このように決めさせていただいている。本日は開催後初めての合同会議であるので、生涯学習部長から生涯学習部の組織等について簡単に説明をさせていただく。その後、それぞれの会議体の長から、それぞれの会について

て概要を説明いただいて、各委員の方に自己紹介をお願いする。本日は初顔合わせであるので、推薦母体、市内でされている活動、あるいは個人的なことでも構わないので、今後の協働の取り組みがしやすいよう、お互いに人となりが見えるような形にしたいので、よろしく願います。持ち時間としては1人2分程度で願います。それぞれの自己紹介が終わったら、三者のこれまでの取り組みとして、提言を取りまとめた経過や科学の祭典の出展等について、社会教育委員の会議の委員から説明をさせていただく。最後に意見交換を行って終了という予定をしている。時間については、先ほど冒頭、議長からあったとおり、11時をめぐりに行っていただきたいので、よろしく願います。

それでは、中村議長、ここから先願います。

1 生涯学習部の概要について

(1) 組織及び所掌事務

(中村議長) 議題に入らせていただく。生涯学習部の機能について、生涯学習部の西田部長から説明をお願いする。

(西田生涯学習部長) 生涯学習部長の西田である。体調の関係でマスクをしたままでしゃべらせていただく。聞き取りにくいところがあるかと思うが、ご容赦いただきたい。

今期、3つの委員会等については改選があり、1期目という方もかなりいらっしゃるのでは、十分承知の方もいらっしゃると思うが、まず生涯学習部の概要についてということで、組織と部全体の所掌事務について私から説明をさせていただく。申し訳ないが、全てを説明すると何時間あっても足りないのでは、時間の関係もあり、概要のみの説明とさせていただく。

まず、生涯学習部の組織については、本日、資料としてお配りした小金井市教育委員会事務局組織図をごらんいただきたい。下段に生涯学習部と書いてあるが、その部分をごらんいただきたい。生涯学習部には3つの課と館があり、それぞれ課長級の職員が配置されている。なお、生涯学習課には、今年9月から10月にかけて行われた国体の準備・開催等をスポーツ振興係において対応するため、現在は生涯学習課長と国体推進担当課長の2名が配属されている。また、図書館については、人事上の都合で、今年度に関しては私が兼任で館長事務取扱となっているが、管理職として現地に館長補佐が配属されており、実質的にはそちらで事務執行の実務を行っている。

施設については、本日、緑色の「小金井の教育 平成24年度版」を用意した。大変役に立つ資料であるので、ぜひ皆様も役立てていただきたい。先ほど課長からあったが、既にお持ちの方は、残部数が少なくなっているのでは、お手数であるが、お帰りの際に職員に返却していただきたい。

それでは、説明に入らせていただく。

まず施設である。主な施設については、生涯学習課関係では63ページをお開きいただきたい。63ページの浴恩館公園内にある文化財センター、それから75ページをお開きいただきたい。こちらは山梨県にある市立清里山荘、少年自然の家と言われているところでもある。それから、体育施設としては、少し戻っていただいて71ページにある上水公園運動施設、テニスコート場、総合体育館、栗山公園健康運動センターといったところを所管している。このうち清里山荘、総合体育館及び栗山公園健康運動センターについては、指定管理者制度での運営を行っている。

次に図書館である。78ページをごらんいただきたい。78ページにあるように、本館とその別館、2つの分室があり、そのほか西之台会館図書室、移動図書館という構成になっている。

最後に公民館についてである。82ページをお開きいただきたい。公民館は本館を含めて5館体制となっている。

ページをめくっていただいて、概括を見ていただいた中でおわかりいただけたと思うが、それぞれの詳細な事業内容については「小金井の教育」に詳細に載っているので、後刻ご参照いただければと思う。事業についてはこれを見て説明していると時間がかかるので、今日は資料として、11月1日現在の事業概要を3ページにまとめたものがあるので、その中から幾つかをピックアップして説明させていただきたい。

生涯学習部事業概要（平成25年11月1日現在）と書かれた資料である。生涯学習課からスポーツ振興係を経て、公民館、図書館と記述されている。

まず、生涯学習課である。市史編さんについては、平成22年度から30年度の9年間計画で新たな市史編さんを開始している。平成25年度、本年度であるが、市制55周年に合わせ、近代の資料編の刊行、平成30年度市制60周年に合わせて、通史編を刊行するという計画になっている。放課後子どもプラン事業については、子供の安心・安全な遊び場の提供を目的として、体験、スポーツ、文化活動の各種事業を展開している。今年度からコーディネーターを各小学校区9人体制とし、より充実を図ってまいろうとしているところである。名勝小金井（サクラ）復活プロジェクトについては、平成22年度から開始したモデル区間640メートルが整備完了している。今後、小金井公園正門前にある老朽化した立体歩道橋の代わりに人道橋の整備を図っていく。スポーツ振興係の欄をごらんいただきたい。最下段にあるスポーツ祭東京2013についての記述があるが、小金井市では9月から10月にかけて弓道競技とバスケットボール競技が開催され、多くの市民や関係団体等の協力を受け、大きな盛り上がりのうちに既に終了している。現在は事後処理作業や、次年度以降の開催地への引き継ぎ準備業務を行っている。

次に公民館、図書館についてである。それぞれの分館、分室で構成される（仮

称) 貫井北町地域センターについての記述が公民館のところに載っている。こちらについては今申し上げたとおり、公民館と図書館の分室と分館が入る予定となっている。平成26年4月の開館に向けての作業を現在鋭意行っているところである。ちなみに、このセンターの運営については、前期の図書館協議会、公民館運営審議会の答申を経て、行政決定し、議会にも説明をして、多摩地区では初めての試みであるNPOの設立を支援して、そこに運営委託をする予定で進めている。また、記述にはないが、清里山荘、総合体育館及び栗山公園健康運動センターについては、指定管理者の再選定の時期を迎えており、そのための作業を進めているところである。

申し訳ないが、時間の関係で本日はこの程度の説明にとどめさせていただいて、質問等がある場合については、後日それぞれの所管課に申し出ていただければ幸いである。

以上、雑駁であるが、私からの概要の説明とさせていただく。

2 三者の概要について

(1) 社会教育委員の会議

(中村議長) 続いて、三者の概要についてということで、まず私のほうから社会教育委員の会議の概要、どういう活動をしているかを紹介し、またその後に各委員から自己紹介をしていただく。

かたい話になるが、少し法律が絡んでくるので、しばしお耳を傾けていただければと思う。社会教育委員というのは社会教育法の第15条に基づき設置されているものであり、小金井においては社会教育委員の任期については1期2年で、現在、27期目を数えている。定数は条例で10名と規定されており、委員の構成については後ほど申し上げるが、公募の方、学校関係の方、家庭教育の向上に資する団体、学識経験者、あと社会教育関連団体という様々な母体から構成されている。社会教育法の第17条にその職務が規定されており、1つは社会教育に関する諸計画を立案するというところで、具体的な活動としては小金井市の生涯学習推進計画の策定に携わっている。現在の計画は、平成21年度から25年度までの5年計画であるが、市の長期総合計画との計画期間のずれを解消するため、平成27年度まで2年間の延伸が決まっている。今期の社会教育委員の会議で、現行の計画の見直しや評価、次期計画の素案作成に取り組むという非常に重い課題を抱えている。

2番目としては、定時または臨時に会議を開催して、教育委員会の諮問に応じ、これに対して意見を述べる。定時の会議としては本会議を年8回開催しており、そのうち1回はこの合同会議、また1回は視察を行っており、そのほかに6回の会議を開催している。

3つ目としては、今まで申し上げた2つの職務を行うために、必要な研究調

査を行うということで、本会議のほかに小委員会を年5回開催している。この小委員会で具体的な詳細な研究調査を行っている。

社会教育法第13条には、地方公共団体が社会教育関係団体に対し補助金を交付しようとする場合には、あらかじめ社会教育委員の会議の意見を聞いて行わなければならないという規定がある。これに基づいて、このような補助金の申請が各団体からあった場合については、本会議において審議している。

我々の上部の組織として、東京都の市町村社会教育委員連絡協議会というものがある。小金井市は第5ブロックに属しており、そのブロックには武蔵野市、三鷹市、府中市、調布市、狛江市がともに属している。小金井の社会教育委員の会議自体も輪を大切にしており、温かい雰囲気の中で活動しているが、第5ブロック全体としてもかなり交流が盛んであり、事務局同士、あるいは委員同士それぞれ非常に仲よく交流を積み重ねてきている。そのあたりはほかのブロック、あるいはほかの審議会に対しても、手前みそであるが、自慢できるものではないかと思っている。

あと、社会教育委員として過去どういうことを行ってきたかということで、積み重ねてきた答申・提言等を順次申し上げる。昭和47年9月においては、小金井における図書館活動はいかにあるべきかについて答申を行った。続いて、昭和52年8月には小金井における社会教育施設のあり方について答申を行った。昭和56年11月には、浴恩館の公園計画と青少年センターのあり方について意見を申し上げた。昭和60年7月には、図書館のあり方について提言を行った。

昭和63年10月には、小金井市における地域活性化のための人材、社会教育活動の援助者の発掘、養成、活用について提言を行った。平成5年7月には、緑ゆたかな生涯学習のまち小金井をめざしてという提言を行った。平成7年8月には生涯学習施設の整備充実についてということで、学校施設のあり方と活用について提言を行った。平成11年3月、21世紀における社会教育施設のあり方について答申を行った。平成15年5月には、学校5日制に伴う地域教育力の活性化について提言を行った。平成16年2月には、社会教育関係団体補助金の見直しについて提言を行っている。続いて、同じく9月には、小金井市社会教育委員選任のあり方について提言を行った。平成19年7月には小金井市地域教育会議ということで、市民が提案する設立と運営の指針について提言を行った。そして、これから重要になってくる提言が行われているが、平成25年8月、小金井市生涯学習支援センター機能の実現に向けてというものである。これについては今日の会議で詳しく皆さんにお話をさせていただく。

こういった経緯で社会教育委員が活動してきたということ、三者合同の知識というか、経緯というか、把握していただくようお願いする。だから、1つは、図書館協議会、公民館運営審議会においても、社会教育委員と同じ土俵で

いろいろ意見を賜りたいという趣旨である。

先ほど事務局から話があったように、これから私も含めて社会教育委員の各委員の自己紹介に移らせていただく。私から順番に、副議長から始まり、私が名前を申し上げるので、それぞれ自己紹介を2分以内でということで協力をお願いします。

私は中村という。よろしくをお願いします。社会教育委員というのは、先ほど申したように、構成の母体があり、まず社会教育関係団体の代表者から今4名選出されている。学校からの推薦者ということで1名、学識経験者から1名、家庭教育の向上に資する活動を行う者、具体的にいうとPTAであるが、そこから1名、公募市民が3名、計10名のメンバーになっている。

私は公募市民の枠で選出され、今期で3期目になる。社会教育委員としては、前の期からも継続して推奨されていることであるが、社会教育と学校教育の関連をより密に持っていかなければならないというモットーのもと、各小学校、中学校に設置されている学校連絡運営委員会の委員に積極的になっていこうということで、私は前原小学校で学校運営連絡委員を拝命しており、今期で4年目になる。それによって社会教育が学校教育に対してできるだけバックアップしているということ、地域の教育力を社会教育委員として向上するために学校教育をバックアップしていく。そういうモットーのもと、現在は学校運営連絡委員というのは私だけであるが、今後、社会教育委員からもどんどん手を挙げていただいて、学校運営連絡委員になっていただくよう各委員の方には既にお願ひしているが、今後そのあたりを含めてよろしくお願ひしたい。あと私は、今、西田部長からも話があったが、NPO法人市民の図書館・公民館こがねいというNPOが今立ち上がっている。ただ、都からの認証は今申請中であり、まだおりてはいないが、そちらの理事をやっていた。あと、NPOでもう一つTOKYOヒューマンライフプラン研究所というところでも理事をやっていた。簡単であるが、私のほうからは以上である。では、原嶋副議長をお願いします。

(原嶋副議長) 生まれてこの方、小金井市在住である。社会教育委員は1期目である。母体は社会教育関係団体、具体的には体育協会である。体育協会も1年目である。体協はアスリートたちの大会の支援だけではなくて、親子、あるいは我々みたいなこういったシニア層、成熟した人たちに対する支援もやっている。総合型にだんだんなってきたという感じがする。私は今、総務部長ということで、就業規則とか規程の変更とか、体協だよりを今鋭意つくっている。1年目なので、体協のことはあまり詳しく聞かれても困るが、私自身は学校教育を約40年間やっていたので、その辺のところから発言ができるかと思っている。よろしくをお願いします。

(中村議長) 皆さん名簿を見ていただいていると思うが、宗像委員は今日欠席ということなので、続いて、樋口委員、お願いします。

(樋口委員) 樋口という。よろしく願います。私は2年前に東京に引っ越してきて、この小金井で小学校とか中学校のPTA副会長をさせていただく中で、今回、社会教育委員のほうに入れていただいたが、外から来た視点とか、親での視点で学びながら、また社会教育委員として意見を言えるようなことがあったら言っていきたいと思う。1年目であるので、本当に勉強させていただくつもりで参加させていただいているので、よろしく願います。

(中村議長) 続いて石田委員、願います。

(石田委員) 社会教育関係団体として、職業を持つ婦人の集まり、国際ソロプチミスト東京小金井から推薦されて、当期が初めてである。そして、社会教育委員のほうから図書館協議会にも出させていただく。私の仕事としては、二十何年前から東町のほうで、櫻芳庵というお抹茶の貸し茶室を営んでいる。裏千家に属しているが、お茶室、その他いろいろなことに使っていただくという活動をさせていただいている。そして、学芸大の留学生の方にソロプチミストとして日本の文化に触れていただくという、着物を着てお抹茶を体験していただくということもさせていただいている。まだ初めてなので、両方の役とも何にもわからないが、できる限り出席し、勉強させていただきたい。よろしく願います。

(中村議長) 続いて樹委員、願います。

(樹委員) 樹一美という。よろしく願います。私は社会教育関係団体のP～ステップの推薦をいただいて、今期で3期目を務めさせていただく。P～ステップというのは小金井在住の子供を持つ主婦の集まりであるが、平和な小金井を子供たちに残していこうという大きな目標を持って、過去には例えば家庭における省エネとか、フードマイレージとか、震災対策とか、様々なことを学びながら、現在はベルマークとテトラパックを集めて、東北支援と小金井の小学校の支援をしていこうという運動と、年に一度ぐらい子供と親のための展示会やセミナーを開催するという活動をしている。社会教育委員としては3期目になるが、今まで頼りにしていた先輩の皆様が抜けられて、これから大事な2年間になってくるので、一生懸命学んで、少しでもお役に立っていただけるように頑張りたい。また、放課後子どもプラン運営委員会にも出向させていただいており、そちらのほうにも少しでも力になっていければと思っている。よろしく願います。

(中村議長) 続いて本多委員、願います。

(本多委員) 本多である。よろしく願います。社会教育関係団体の小金井市文化連盟から推薦をいただいて、今期で3期目になる。小金井市文化連盟は華道部と茶道部があり、合同でする年間の催しは、春は桜まつり、秋は市民文化祭である。茶道部のみの活動はうめまつり、お月見である。そして、今回で5回目になるが、東京都が主催する「東京大茶会」の催しに力を入れてやっ

る。多摩の12市が集まり、今年は入園者が多く、たてもの園の係の方から感謝された。開催中は入園料が無料になる。一般の体験教室もあるが、今回は初めて、子供のみのお茶会の体験教室をした。子供が親から離れてお茶席にどういふふうにして入るのかという体験教室をした。これは良い企画で、お母様方から評判でした。来年もぜひ継続してほしいという声がたくさん入っている。私は今、先ほど議長が言われたNPOの市民の図書館・公民館こがねい、これはまだ仮名ですが、幹事として所属させていただいている。お役に立つかわからないが、今後ともよろしく願います。

(中村議長) 続いて倉持委員、願います。

(倉持委員) 倉持である。東京学芸大学で社会教育、生涯学習を担当している。小金井市の社会教育委員は4期目ということで、今期、生涯学習推進計画を見直すということで、引き続き担当させていただいている。今、本多さんのお話を伺うだけでも私はとても勉強になるが、小金井市の社会教育委員をさせていただく中でいろいろと学ばせていただいている。どうぞよろしく願います。

(中村議長) 続いて小山田委員、願います。

(小山田委員) 小山田佳代という。公募市民として入らせていただいて、今期が初めての参加になる。ふだんはNPO法人東京学芸大こども未来研究所の理事でもあるが、研究員として活動をしている。その中で平成19年度からボランティアの資質向上のための3市連携学芸大講座ということで、小金井市、国分寺市、小平市という3市と連携させていただいて、市民の皆様への講座を担当させていただいている。また、文科省からの社会教育向上のためのプロジェクトということで、こちら23年度と24年度は小金井市の生涯学習課の皆様とも、また3市連携ということでも活動をさせていただいており、ふだんもなぜか社会教育の中で活動していることが多いが、今回、委員にならせていただいて、早速ブロック研修会や関東甲信越静の研修会にも参加させていただいて、社会教育委員のあり方とか意義というか、そういうものを今ひしひしと感じており、初めての参加であるが、どこまでお役に立てるかと思うが、可能な限り皆様とご一緒に小金井の社会教育向上のために頑張っていきたいと思うので、どうぞよろしく願います。

(中村議長) 続いて清水委員、願います。

(清水委員) 清水という。公募市民の枠で応募して、今期が1期目である。地域の複数の団体で活動しているので、そういう観点から生涯学習について私なりの意見が出せればと思っている。ただ、初めて会に参加して、皆さんそれぞれ専門性が高くて、私は社会教育からは一番遠いところにいるなという感覚を今持っているが、そういう視点からの発言もそれなりの意義があるかなということで、いろいろ勉強しながらお役に立っていければと思っている。よろしく願います。

(中村議長) もう1名、今日は宗像委員が欠席である。宗像委員においては第二小学校の校長先生を務めている。総勢10名になる。今後ともよろしくお願い申し上げます。

(2) 図書館協議会

(中村議長) 続いて、小金井市図書館協議会から説明をいただきたいが、まず図書館協議会で何をやっておいでになるかという説明と自己紹介をお願いする。なお、田中会長については少し私は存じ上げており、これまで社会教育委員もやっていただいた、非常にたのもしい存在であると思うので、よきパートナーとして今後ともよろしくお願い申し上げます。

(田中会長) 図書館協議会の役割とこれまでの経過ということで話をさせていただく。会長になったが、2日前になったばかりなので、ほやほやで、しかも委員の皆様も1期の方ばかりで、できたてのほやほやみたいところなので、簡単に言うと新生児みたいところで、新しい視点でこれからの図書館のことをやっていけるのではないかと考えている。また、逆に言うと、この図書館についてよくわかってない部分もあると思うので、皆様のほうから、あるいは図書館を所掌されている事務のほうから教えていただければと思っている。

それでは、図書館の役割と協議会の役割について少し話をさせていただく。図書館協議会は平成元年に小金井市図書館条例が交付され、同年6月に第1期の協議会委員が任命された。資料の最初の次第のところを見ていただくとわかるが、社会教育の皆さんは第27期ということであったが、公民館運営審議会は32期ということなので、そういうところから見ると、図書館協議会はまだ13期ということなので、できてからそんなに日はたっていないということになるかと思う。設置されてから13期、私どもは13期になるが、協議会は図書館法第14条の規定により、図書館の運営に関し、館長の諮問に応ずるとともに、図書館の行う図書館方針について、館長に対して意見を述べる機関として設置されている。こういうふうに書いてあるので、図書館の運営に関して、館長からこういうことについてどうだと、あるいは図書館業務について意見を述べる機関ということになっている。先ほども申したが、私達13期は、任期は平成25年11月1日から平成27年10月31日までとなっており、11月18日に委嘱状の交付を受けたばかりなので、図書館の職員さんと一緒にこれから図書館の課題に取り組んで、よりよい図書館になるように市民が使いやすい、情報の発信の場所であると思うので、そういう図書館になっていけるように意見を述べていきたい。先ほどから出ている貫井北町地域センター図書館分室の運営体制については、前期の図書館協議会の委員の皆様から提言をいただいて、答申が出ている。それに従って、今、着々と開館に向けて準備がされているところではないかと思う。また、小金井市図書館運営方針の改訂版の策定などを

前期の委員の皆様にごやっていたので、私達13期としては、これから貫井北分室の開館及びその運営について見守り、検討していくというか、検証していくというか、そういうことがこの13期に課された課題ではないかと考えている。私どもは1期目であるので、全員力を合わせて取り組んでいきたいと思っているので、どうぞよろしく願います。

それでは、自己紹介であるが、名簿に従って行う。

私は田中幸夫というが、現在、東京農工大学の小金井の工学部に所属している。小金井市とのかかわり合いは、最初、体協のほうで理事、専務理事、副会長などをさせていただき、その間、社会教育委員のほうに体協からの代表ということで出させていただいたことがある。その間に議長を1期務めさせていただいて、あまり大したことはしなかったと思うが、小金井市の社会教育のあり方については少し皆さんと話ができたと知っている。あと、大学としては、図書館のことにに関していうと、小金井市の図書館と提携をしており、農工大の工学部の図書館に皆さん借りに行くことができることになっている。あまり知られていないかもしれないが、小金井市の図書カードを持って来ていただくと、貸し出しができる。小金井市と工学部の図書館とでそういう提携をしている。そういうわけで、私も小金井に30年近く住んでいるので、使うほうばかりだったが、これからはそういう面も大切かなと思うが、新しくできる貫井北のすぐ近くなので期待しているが、そこのところを見ながら、あるいはこちらの本館の業務などをユーザーの視点で見て、こういうふうにしたらいいのではないかという提言ができればよいと思っている。以上である。よろしく願います。

それでは、中里委員、願います。

(中里委員) 中里である。よろしく願います。今、皆様の自己紹介を伺っていると、それぞれ有識者であったり、活動母体をお持ちの方でいらしたり、私のような素人は全く場違いのような感じである。一般市民の1人として、また高齢者の1人として図書館が少しでも使い勝手がよいようになればと思い、この協議会に参加させていただいた次第である。小金井に住んで40年以上になるが、ずっと仕事を続けており、都心まで通勤の日々であった。だから、あまりゆっくり図書館を利用する機会もなかったが、定年退職を迎えたので、これからゆっくり図書館めぐり、公民館めぐりをしたいと思っている。そういう意味では貫井北町地域センターの開館を心待ちにしている1人である。皆様いろいろ教えていただければありがたいと思っている。どうぞよろしく願います。

(田中会長) それでは、続いて原忍委員、願います。

(原委員) 小金井第二中学校長の原である。市内の小中学校の校長会の代表として委嘱状をいただいて、図書館協議会に委員として参加させていただいている。穏やかな地域柄、そして教育力の高い小金井市に勤務させていただくのは

本当にありがたいと思っている。小金井市はお金がないと言いながらも、実は教育の予算はたっぷりいただいていると思っている。でも、本当にお金がなくて、建物は雨漏りだらけで何十カ所もあり、図書室もバケツが10個ぐらいあるが、かろうじて本が濡れないように配置をしている。学校の図書室の本も本当に充実して、新しい本を入れていただいているところである。あと、学校は朝読書というのを行っており、わずか10分間であるが、毎朝子供たちが読書をする時間がある。こういったことが次第に成長して大人になったときに、つらいとき、心のよりどころとして本があればよい、生きるよすがとか支えになっていくとよいと思っている。朝読書自体はまだ検証はしていないが、私の感覚でいうと、していることには意義があると思っている。どうぞよろしく願います。

(田中会長) 続いて吉田雪枝委員、願います。

(吉田委員) 吉田雪枝である。中町四丁目にあるこごうちぶんこ・こどりのへやというところで、世話人の1人をさせていただいている。こごうちぶんこは以前、小金井に住んでいた小河内芳子さんという、もうお亡くなりになったのだが、その方から引き継いだ絵本の蔵書と教えをもとに13年前につくられた文庫である。小河内芳子さんは戦前に図書館司書になられて、図書館司書としてもパイオニアで、その中でも児童図書の司書として活躍された方で、小金井に住んでいらした間も小金井の市民にたくさんのことを教えてくださった方だと聞いている。その蔵書とたくさん教えていただいたことを絶やさぬように文庫を13年続けており、これからも続けていきたいと思って活動している。どうぞよろしく願います。

(田中会長) 石田千静子さんはもう1回やるか。

(石田委員) いや、もう概略は皆さんにおわかりいただけたと思うので。

(田中会長) 石田委員は、社会教育委員の会議からこちらの協議会にも出ていただいているということである。

続いて宮澤みゆき委員、願います。

(宮澤委員) 小金井市小中学校PTA連合会からまいった宮澤みゆきである。よろしく願います。前原小のPTAのほうで活動している。子供を持つ親としていろいろ勉強させていただきたいと思っている。よろしく願います。

(田中会長) 齊藤誠一委員は欠席であるが、説明はどうするか。図書館長補佐のほうから一言、二言、願います。

(上石図書館補佐) 齊藤誠一委員については学識経験ということでこちらのほうに来ていただいているが、今現在は千葉経済大学で図書館学を教えている。あと、立川市の図書館に長くお勤めしていて、そして今は大学の先生ということである。

(田中会長) 続いて、船崎尚委員も欠席されている。

(上石図書館補佐) 船崎尚委員については、武蔵野市の図書館の図書館長を経験されていた方である。今年3月までは武蔵野大学で、やはり図書館学の先生をされていた。こちらのほうに来ていただくが、船崎先生は武蔵野市の図書館運営協議会の委員もされていると伺っている。

(田中会長) 続いて則武辰夫委員、お願いする。

(則武委員) 公募市民枠で参加ささせていただいている則武辰夫である。私、おとといの図書館協議会に初めて参加させていただいて、そこでも自己紹介させていただいたが、私、地元の東小学校、東中学校の出身である。子供が4人おり、全て東小、東中の卒業であるが、あまり地域に関わってこなかったと感じている。実は今年の3月に定年退職して、少し時間ができたので、今まで全然関わってこなかった地域のこと、子育てのことはほとんど妻に任せていたという反省のもと、一念発起をして、まずは身近なところで図書館のほうに関わってみたいかなと。いつも東分室の小さな図書館を利用しているが、図書館というのがもう少し夢が持てるような場所だったらいいかなということで参加させていただいた。実は前職のときには社会教育にも若干かかわりがあるような仕事をしていたが、自分としては地域のことを全然発信もしなかったし、地域のことを知らなかったかなという反省から、今回勉強させていただきながら参加をしたいと思っている。よろしくお願いする。

(田中会長) 最後に、藤森洋子委員からお願いする。

(藤森委員) 藤森である。若い頃は出版社に勤めており、百科事典とか、国語辞典とか、子供の本とか、いろいろ本を作ることに携わっており、それと同時に、児童文学者のもとで個人的にアシスタントのようなことを24年ぐらいやっていた。それで、その児童文学者の方が亡くなってしまったので、私は何か役に立つことはないかと考えていったときに、この公募のお知らせを見て、今までのつくり手という立場から図書館のユーザーとしての立場、どういったことが考えられるかということに気がつき、少しでもお役に立てることがあればと思って応募した。でも、ここに来たら皆さん立派な方ばかりなので、いかに自分が何もわからないかということは今恥ずかしく思っているが、ご指導いただきながら精いっぱい務めさせていただく。どうぞよろしくお願いする。

(田中会長) 以上である。先ほどから申ししているが、皆さん1期目で、私も1期目で、ただし図書館、小金井を良くしようという気持ちがたくさんあるので、どうぞよろしくお願いする。

(中村議長) よろしくお願いする。

(3) 公民館運営審議会

(中村議長) 続いて、公民館運営審議会の藤井委員長から、審議会についてのご案内と自己紹介をお願いする。なお、藤井委員長におかれては公募枠で3期

目を重ねられたベテランであり、今回の合同会議についても貴重なご提言をたくさんいただいている。私も安心して、頼りになる委員長さんだと確信しているので、今後ともよろしく願います。

（藤井委員長）公民館運営審議会である。通称公運審と言っている。我々は10名の委員、任期は2年、現在32期。皆様方よりも少し古い活動の歴史を持っている。会議の開催は今日の会議を含めて年10回。だから、平均的にいえば、月に1回会議を開催している。会議の内容は、各公民館が講座を開いているが、この講座の計画と報告事項が中心の会議である。現在、小金井の公民館は5館ある。来年4月には、先ほどから話題になっている貫井北町に新しい分館がオープンして、6館体制で進む予定である。私としては全国に誇れる制度だと思うが、市民の方々の応募による企画実行委員制度というものを持っていて、彼らが公民館の職員と協働で市民を対象とした講座を企画し、検討し、立ち上げ、広報活動、実際の講座の運営を6人の方々がやり、基本的には週1回ぐらいは公民館に出てきて、彼らのエネルギーで講座が開催されているとご理解いただいてもいいのではないかと思う。その講座の内容と報告を私が聞いて検討したり審議したりというのが、公民館運営審議会の大きな仕事というのか、内容になっている。それと、10名の委員たちが担当制で、東京都公民館連絡協議会の委員部会、運営委員会、研修会に参加して、自分たちの研鑽というか、自己の向上のために頑張っている。また、東京都公民館研究大会やその総会にも出席している。それともう一つ大きなものとして、関東甲信越に静岡県を加えた公民館の研究大会が年1回、1泊2日であるが、こういう研究大会に出席して、近隣都市の委員さん方との交流会を開いている。あと、任意の参加として、公民館の企画実行委員、職員の方、公運審の委員による三者合同研修会もある。また、各公民館企画実行委員の方々の連絡協議会にも出たりして、企画実行委員の方々はどういうことを考えているんだろうとか、そういうことに出席している委員の方もいる。それと現在、私達は32期であるが、前期31期に、多分、過去の公運審の委員の方々は経験がなかったと思うが、大きな任務を2個終えた。1個は、来年4月開館予定の（仮称）貫井北町地域センターの建設市民検討委員会に参加した。それから、非常に難しい問題で、前期の委員長だった佐々木先生に大分助けてもらったが、地域センター運営についての答申、これは最初聞いたときにどんなに大きな問題なのかと思った。小金井の各分館は職員を配置してやってきたわけだが、要は未知との遭遇みたいな運営を考えるということで半年近く協議して、先ほどから話題に出てきたが、ざっくり言えば、私達はああせい、こうせいと言わなかった。こういう答申を持って公民館を運営してほしいという答申を出したところ、NPOでしましようという結果になったが、これからNPOが運営していく公民館と小金井市の職員の方が運営している公民館が、実際どういう形で来年度から前に走っ

ていってくれるのかということも、今後の公運審の会議の中で、ある言葉で言えば、モニタリングしたい。こういう内容で、新しい公運審の会議のスタイルが出てくるのではないかと私は現在考えている。多分、委員の方々もこれについてはそれぞれ考え方がるので、自己紹介のときに少し出るかもしれない。それともう1個は、先ほど冒頭にもあったが、小金井市生涯学習支援センターについても小委員会を設けて、三者でミーティングをやって、これも図書館協議会の前委員長の松尾先生に提言書をまとめてもらって、今年、生涯学習課に提言書を提出した。これが31期の大きな仕事だったと私は思っている。市民目線に立った公民館ということを私自身は常に考えていて、どういう形で貫井北町の分館も運営されていくのか、非常に期待を持っている。以上、簡単だが、公民館運営審議会の内容である。もしご質問等あれば、最後に質疑応答も若干あるので、そのときに出してもらいたい。

私自身の自己紹介になるが、私は約40年前に小金井に越してきた。当時サラリーマンだったので、小金井というところは、自分が晩飯を食べるところと睡眠をとる場所としか考えていなかった。10年ぐらい前に退職し、今後何十年も小金井市に住むので、一体どうしようかということでもいろいろなことを考えて、退職して1年目ぐらいかと思うが、全然公民館とは関係ないが、小金井に農家がたくさんある。この農家を助けていこうというボランティアグループがあって、前の仕事とは全然違う仕事なので、これは個人的に非常におもしろいと思って、梶野町の農家を手伝うことにした。これが言葉にして言えば、完全に私ははまったわけである。これは2001年からであるので、13、4年続いている。つくっているものについては、皆様方もヨーカドーのスーパーで買い物なさっていると思うが、多分私たちがつくった野菜を皆さん方も買ってもらっているのではないかと思う。そうこうしているうちに、ある分館で企画実行委員を募集というのを市報を見て、企画実行委員に応募して、途中から公運審の市民公募の記事を見て応募して委員になって、今期で3期目であるが、去年の佐々木委員長から32期の委員長をやってくれないかということを知ったので、まあまあということで、そのメンバーたちも全員経験者に近いので、最後に委員長をやらせてくださいということで、現在やっている。今後ともよろしく願います。

メンバーの自己紹介であるが、こちらに並んでいる順番にやっていただけるか。

(佐々木副委員長) 副委員長の佐々木である。よろしく願います。前回、委員長をやっていましたが、藤井委員長はリーダーシップも優れているので、私よりかなり適任なのではないかということでやっていただいた。よろしく願います。私は東京学芸大学で教育行政学を担当しており、教育委員会制度とか教育長の資質とか、そういったものを研究している。いつも外から見っていたので、

公民館に携わって、三者の中でもおそらく現場を抱えている感覚というのが強いのではないかと考えている。職員の方とか施設を抱えて、そしてあと企画委員という市民の方も一緒になってやっていくということで、三者の中ではそういった点で現場感覚といった特徴があるのかと考えている。今、話があったが、小金井市の伝統の中でつくり上げられてきた教育委員制度といったものがあった、市民が事業をつくって運営していくという伝統があるので、そういったものは新しいセンターの中でも受け継いでいければよいと考えている。よろしく願います。

（小島委員）小島敬子という。藤井委員長と同じで3期目である。私は団体推薦で出ており、ご存じかもしれないが、小金井女性ネットワーク、小金井こども遊パーク、わんぱく夏まつりの会とあって、子供たち、女性たちを主体とした団体からの推薦で出ている。私は小金井市民になってから短いのであるが、杉並区民時代にPTA活動をかなりやり、それが私にとって社会教育活動の根っこになっている。そこから派生して地域の教育だの環境、まちづくり、福祉などさまざまな活動をしてきて、小金井に越してからも同様にしているが、特にPTA会長時代に、大分古い話であるが、東京都教育委員会からどのように都立高校をつくっていったらよいのかという基本構想検討委員会、これは全都的なものであるが、これの委員になるようにということで、そのときから私はプロットを3つぐらい立てたが、その1つに学校教育と地域との信頼関係づくり、これについて大分発言させていただいた思い出がある。公民館活動に関しては、利用者一方で過ごしていたが、去年、その前からであるが、例えば子どもの人権講座の準備会から関わって、そこにいらっしゃる小山田先生も何回かお呼びして、お世話になったこともある。あと、企画実行委員制度と先ほど委員長がおっしゃったが、そのほかに自主講座というのがあり、これは市民団体が個人でも団体でも自由にできる。もちろんやっていいと言われればであるが。今年大きなイベントができて、成功裏に終わりほっとしているのは、男女共同参画講座の自主講座の企画と運営で、今までにない切り口で企画し、またそういった講師をお呼びして、好評に終わったことをとてもよかったと思っている。先ほどから少し地域との連携という言葉が出ている。連携はし過ぎると息苦しいものである。むしろ言葉としては、地域との信頼関係づくりというふうに置きかえてと思っているが、そんなつぶやきで自己紹介をお終えることになると思うが、最後に私の中に生まれたのは、去年、答申を出すときに出てきた市民協働というキーワード、アウトリーチというキーワード、社会教育の充実の必要性、こういうものが今私の中のテーマというか、キーワードになっている。以上である。

（山田委員）山田健二という。私も前の小島委員と同じで、教育・学術・文化の団体推薦ということで出ている。私は3期目であるが、1期目は公民館とい

うのがよくわからなくて、勉強するというような感じであった。東京都の公民館連絡協議会のいろいろな先生を招いて講演をしたりするところに出て行って勉強して、1期やって何となくわかったという感じで、もとをただせば、憲法の教育を受ける権利というところからきているということもわかってきた。2期目は、先ほどから出ている貫井北町地域センターの公民館の運営についての答申をまとめるということで、私自身もいろいろ勉強することができて、各自自治体のホームページでどういう運営がなされているのかということをも自分なりに勉強したりすることができた。それから、私の団体は、環境保護団体の野川ほたる村という団体である。先ほど社会教育委員の議長さんから話があった社会教育と学校教育の連携ということであれば、今、小金井市内の小学校5年生はみんな稲をつくる授業があるが、そういうことを教えるというのか、手伝っているというのか、それをやっている。もう10年ぐらひは、ある学校では学校の中にビニールシートを敷いて田んぼをつくって、稲をつくり、その小学校ではそれを家庭科の時間にみんなで炊いて、みそ汁をつくって食べるということもやっている。以前はそのほかにも工作みたいなこと、よしず作りとか、そういうことをやったこともある。二中の教室をお借りして、稲のわらを使った工作をしたり、そういう活動もしている。そのほかにも、自然環境保護団体であるので、野川の流量を毎月調べている。それは2月、3月になると野川は完全に枯れてしまうので、それがどういうふうになっているのかというのを調べるために始めたが、それも今年で8年ぐらひやっているが、今年には特に2月、3月は水枯れがひどかった。それと、最近気づいているのは湧き水の量が非常に少なくなってきた。このところまた非常に増えているという、今までと違った傾向があるということは感じている。そのほかにも自然観察会などもやっている。そういう活動をしている。私は小金井第三小学校と第二中学校の卒業生である。それから少し小金井にいなかった時期もあるが、昭和29年ごろから小金井に住んでいる。そういう関係で公運審も3期目なので、今期で最後であるが、一生懸命やっていきたい。よろしく願います。

(立川委員) 立川という。社会教育委員の清水さんが副会長をされている商工会から参加させていただいている。ふだんは設計事務所をしているが、東小金井北口商店会に入っており、そちらで東大通りで、駅から法政のほうへ向かっていくところでまだ道が拡幅されてないところがあるのだが、今、工事を進めており、その東大通りまちづくり協議会の会長をさせていただいている。歩道を広げたりとか、桜を植えたりとかいうふうに東京都にお願いしており、歩道は3.5メートルから4.5メートルまで確保できたが、桜は都が嫌って、小金井だから桜を植えたいというふうに商店会を中心に活動しており、今、署名活動をやっているのだから、また署名のお願いにまいったら協力をよろしく願います。

(宮澤委員) 宮澤もと子という。一般公募で、2期目に入った。よろしく願います。先ほど社会教育委員の本多様が説明されていた小金井文化連盟、私は華道部に所属しており、企画部を担当させていただいている。公民館との出会いであるが、小金井市に嫁いできて、最初は本町分館に図書館があり、子育て中はそこから公民館にかかわってきた。あそこに図書館があって便利であった。それから、移動図書館を利用させていただいた。本町分館を25年間使わせていただいておりますながら、企画実行委員もやらせていただいている。この前、修学旅行が終わったということで、第二中学校の生徒さんが2名、2年生と3年生がいらしていただいて、楽しく話していた。そういうことで、幼児から小学、中学、高校生、老人の方、60歳で定年された男性の方にも、華道部生け花の会として池坊を教えているので、またお時間のある方は、公民館本町分館を利用しているので、ぜひ生け花の会にも参加していただきたいと思うので、どうぞよろしく願います。

(神島委員) 神島せつ子という。今期で3期目に入った。1期目は社協のほうからの推薦で出させていただいて、2期と3期は一般公募である。小金井に住んで55年、市制とともに歩いてきた。ボランティア一筋で生き抜いてまいって、何もわからないが、楽しく生きることと小金井のよさ、歴史のあるまちは重厚であるということを実感している。職員の皆様もお互いに年をとるか、私の知っている方も大勢お辞めになり、寂しい限りであるが、これからも若い方々とともに老いてもまたお互いに助け合いながら、小金井市のために充実した日々を過ごしてまいりたいと思っている。公運審については開かれた公民館になるために努力を重ねてまいりたい。ここにいる10人は大変ユニークな人間がそろっているので、いろいろ皆様にお力添えをいただくようになると思うが、どうぞよろしく願います。

(清水委員) 清水啓子という。私は現在、小金井第一中学校でPTAの本部役員を務めさせていただいている。息子と娘が1人ずつおり、上は高校1年生、下は中学1年生である。高校1年生の息子が初めて小金井市内から出て高校に入ったときに、小金井市の教育環境はとてもいいんだなということを実感した。こちらに住むようになって15年。恥ずかしながら公民館のことというのは、ほとんどとっていいほどわからないことばかりである。1期目ということで、ベテランの諸先輩方にいろいろと教えていただいで、務めさせていただきたいと思っている。よろしく願います。

(亘理委員) 亘理千鶴子という。私は社会福祉協議会で、神島さんの後を継いで副会長をさせていただいている。最初は民生児童委員の主任児童委員を6年間、そして教育委員を8年間しており、それで社協にまいった。教育委員会ではいつもこちらの公民館の報告を受けていたので、社協から話があったときは軽い気持ちで委員を受けたが、その熱い会議にびっくりして、私は口下手なの

で、とてもついていけないと悩んだ時期、公運審には向いてないのではないかという状況もあったが、今は先ほど話があったが、東京都公民館連絡協議会の委員部会にも出させていただいて、他市の状況もわかり、とても居心地のよい場所となっている。今度の4月の貫井北町地域センターのNPOにも監事として出席させていただいているので、この2年間は重要な2年になると自分で決意している。よろしく願います。

(藤井委員長) これで9名。あと1名、名簿の上から3番目の今城先生は公務で欠席ということであるが、先生は小金井第一小学校の校長先生で、学校代表として公運審の委員になっていただいている。

これは全体のことであるが、平成26年度のこの会議は公運審が事務局を担当することになった。それで、会議の中身その他、場所についてはこれから決めていきたいが、日にちは来年5月16日の午後と11月21日の午後、両方とも金曜日であるが、日にちは皆様方にメモしてもらって、中身等についてはまた三者の世話人会というのか、代表で決めて、1か月前ぐらいには皆様方のところに通知が届くような段取りで日程を詰めていきたい。もし会議のテーマ等でリクエストなどがあれば、皆様方の定例会議の中で出してもらっても結構だし、三者合同会議なので、そういうことも皆様方の中で検討していただきたい。

3 三者共同の取り組みについて

(1) (仮称) 小金井市生涯学習支援センター機能の実現に向けて(提言)の提出

(中村議長) 続いて、議題の3に移らせていただく。三者共同の取り組みについて。1つが小金井市生涯学習支援センター機能の実現に向けて(提言)の提出、2つ目が「青少年のための科学の祭典」東京大会 in 小金井への出展状況である。まず、1番の小金井市生涯学習支援センター機能の実現に向けては、皆様のお手元の資料をお目通しいただければと思う。これは社会教育委員の皆様さんには繰り返しになるが、重要であるので、あえて読み合わせをさせていただく。1ページ目をごらんいただきたい。

(以下、資料「(仮称) 小金井市生涯学習支援センター機能の実現に向けて【提言】」読み上げ)

まず、この提言作成に至った経過、取りまとめの状況について、私のほうから説明をさせていただく。平成23年8月に社会教育委員の会議でまとめた、「小金井市生涯学習支援センター」創設に向けてという書面がある。小金井市生涯学習センター創設に向けての「はじめに」というところの要点だけかいつまんで説明させていただく。そこには社会教育関係委員会には社会教育委員の会議、公民館運営審議会、図書館協議会(以下「三者」という)があり、それ

それぞれの目的に応じて役割を果たしてきた。三者が行動をともにし、情報の提供を密にし、共有することを心がけ、実現することは、小金井市の生涯学習推進の大きな原動力になることは疑いもない。平成22年より三者合同会議を年2回に増やし交流を深め、本年は三者協力して、2011年、青少年のための科学の祭典に出展すると書いてある。これが出されたのは平成23年の文書である。その「はじめに」のところのほかに記載があり、これは皆さんでぜひ共有していただきたいと思うので、ざっと読み上げさせていただく。

(以下、「小金井市生涯学習支援センター」創設に向けて 第25期社会教育委員の会議纏め 「はじめに」の2段落目及び3段落目読み上げ)

一応こういった背景をもとに三者のそれぞれの会議、それからあと、今、私も入っていたが、三者の検討委員会、これはボランティア、手弁当で約6回協議を重ねた。社会教育委員の会議でも定例会議、小委員会で討議を重ね、先ほど読み合わせをさせていただいた内容についてもかなり字句の精査等何回も繰り返したあと、この提言に至ったという経緯がある。そして、今年の夏に教育長にこの提言を出せたという経緯がある。そういうことを皆さんと共有認識ということで、ご理解いただけたらと思う。今後の展開については、各三者の委員会でどういう形で、今後これを実現に向けて持っていただくかというのを熟議していただきたいをお願いしたい。そして、できることならば、各三者の会議が閉じる2年後をめどに、何らかの具体的な動きをやっていきたいと考えている。そして、市の第3次生涯学習推進計画に提言の文言をぜひ入れていただければありがたいと思ったりもしている。また、細かなことにおいては、各会のほうで討議、熟議いただきたいと思う。

(2) 「青少年のための科学の祭典」東京大会 in 小金井への出展状況

(中村議長) 続いて、科学の祭典について、本多委員から説明をお願いします。

(本多委員) 今年行った「いつでも学習・どこでも科学」の写真をごらんになりながら、つたない話であるが、聞いていただきたい。今、議長も言われたように、平成23年の合同会議の折にきょうと同じように自己紹介をし、その後、これからの三者合同会議の目的は何なのかといろいろ出た。その折に三者が共有する目標を一つに持ち、それに向かうことが一番いいのではないかと、三者の議長と副議長計6名の方が心を砕かれたわけである。ソロプチミストと科学の祭典とのつながりについてであるが、写真の最後のところの、右から4番目の方は滝川先生とおっしゃる。その隣が長谷川先生。長谷川先生の隣が現在のソロプチミストの会長の本川会長で、この方が当時の社会教育委員の会議の議長である。話を戻して、三者で何かしたいということで始まって、本川議長が科学の祭典はどうですか、皆さんやってみませんかと持ちかけ、科学の祭典へ出展することになった。一番よかった感想として、三者がそれぞれのブースを

まとめ、手伝った方々が一つになったということをお知らせしたい。あと細かいところは報告書を見ていただくということで話を終えたい。

(中村議長) この資料については本多委員のお手製で、ごく最近、デジタルカメラをマスターされたと聞いた。非常によくでき上がった労作である。予定の時間を若干オーバーしたが、最後にどうしてもという方で意見があったら、発言の前にご自分の名前をおっしゃっていただいて、意見をいただければと思う。今まで話しした中で特に何か意見等はないか。

(本多委員) 本多である。言い忘れてしまった。先ほど滝川先生の話をしたが、科学の祭典については、最初の始まりがソロプチミストで、夏休みに子供向けの科学のイベントをしたいという声が出たそうである。その折に滝川先生に相談されて、どうせやるなら大々的にやったほうがよいということで、今はなくなった公会堂で始まったと聞いている。公会堂が壊される時期がきて、場所を学芸大に移したという経緯だそうである。申し訳ない。少し抜けていたら補足をお願いします。

(中村議長) 意見はないか。科学の祭典でも結構だし、これまでの話し全般にわたって何か意見あるか。

(石田委員) 今の本多委員の説明にソロプチミストとして補足させていただく。ソロプチミストの10周年の子供たちへの啓蒙活動としてサイエンスライブショーというものを、当時はICU高校の理科の先生であった滝川洋二先生を中心に、公民館でしたのが始まりである。それから、小金井工業高校の体育館を借りて1回、そして会場がだんだん手狭になったので、そのころ学芸大学の学長であった鷲山先生に相談したら、学生たちが教育学習でいない9月ならば校舎を使ってよいということで科学の祭典に発展して、市の商工会、それからいろいろな団体も巻き込み、現在に至っているという状況である。

4 意見交換

(中村議長) ほかに何か意見はないか。よろしいか。

今後のスケジュールということで、先ほどもご案内したが、夏に三者で提言した内容をこれから三者でより進化させていただくことがまず1つ。それから、来年も行われる予定の科学の祭典、これは大体9月上旬に毎年実施されているが、それについての準備に向けて、今後、着々と進めていくことになろうかと思う。また、来年5月16日に三者の懇談会が行われるので、万障繰り合わせの上、出席いただきたく思う。

特に意見がなければ、閉じさせていただく。今日はお忙しい中、集まっただき感謝申し上げます。

事務局から何かないか。

(天野生涯学習課長) ない。

(中村議長) この後、社会教育委員の方だけ残っていただいて、また別途開催する。

以上